

ミニ・ラグビーのコーチング

(3・4年生の練習から カテゴリーごとにコーチの目)

平成19年1月18日スタート

文責 佐藤 満弘

はじめに

コーチングは難しいもので、これでいいということはありません。常に試行錯誤です。子供たちの性格、素質、体力などを見ながら適切に教えていかなければならないし、子供たちの自主性を引き出すことに努力しなければならないのです。

チームとしては、戦術、戦略を考えていく必要もあります。また、ルールを理解し、間違いないようにしなければなりません。ルールを利用しての戦術も必要です。

また、当然のことながら学年の差でコーチングのレベルも違ってきます。

コーチには技術、知識、経験がなければいけません。

しかし、ミニ・ラグビーのコーチはラグビー経験が無くても出来ます。

子供たちへの愛情を持っていれば。知識・技術などはあとからついてきます。

多くの意見を踏まえていきたいと思ひますし、当資料も常に改訂を前提として作り上げていきたいと考えています。

* この資料は、私が現在担当している中学年を対象に書いています。

幼稚園・低学年・高学年・中学生では当然のこととして、修正しなければならないところもあるでしょうし、追加すべきところもあるでしょう。

0. コーチになったら最低限これだけは

0-1. 情熱を持つ

子供たちを教える、子供たちに教わる、を通じてお互いに信頼感を持ち合い、両親ではない、教師ではない立場で子供たちに接するには情熱が必要です。

大きな声を出すことではなく、真摯な気持で合い対すれば自ずから道は開けてきます。まずは練習を休まないことです。

0-2. 子供は名前と呼ぶ

姓ではなく名で呼んだほうが良いと思います。家庭で呼んでいるのは名です。あだ名も悪くはありませんが控えたほうが良いでしょう。コーチになって、または他の学年を担当することになって最初にすることは子供の名前を覚えることです。それも出来るだけ早く。

0-3. 子供の目線で話しかけよう

子供と話しをするときは、かがむ、腰を下ろすなどで子供の目線で話しをするようにしましょう。上から見下ろすかたちで話すのは子供たちが威圧感を持ちます。正直に話してくれない、自分の考えが出せないなどの欠陥が生じます。

0-4. 子供たちの健康状態に気をくばろう

朝、会ったら子供たちの顔色に気をつけましょう。朝食を食べてこない、前の晩に夜更かしをしているなどで顔色の悪い子、元気のない子がいます。ムリをさせないようにしましょう。また、元々病気を持っている子もいます。父母のかたとも話しをしましょう。

0-5. 言葉に気をつけよう

思いがけない言葉が子供を傷つける場合があります。例えば“学校の成績はどうなの”，“お兄ちゃんなんだから”とか、なにげなしに言ったことが子供によってはショックを与えることがあります。注意するとともに他のコーチにも伝えておきましょう。

0-6. 障害者も普通の子供

このスクールはオールカマーです。程度に関わらず、知的障害、身体障害を持った子も受け入れています。また、見た目ではわからない子もいます。親と良く相談し適切な対応が望まれます。できるだけ普通に扱うよう心がけましょう。

0-7. 体罰は絶対禁止?????

原則は体罰は禁止です。でも、頭をコツンと叩く、おしりを叩くなど体罰とまでい
かないものもあります。このへんまではいいのでは。
暴言は暴力と同じです。前向きな言葉を使い続けましょう。

0-8. 誉めること 叱ること

人によっては、誉めることに徹底することで叱る必要はないというかたもいます。
しかし、時には叱ることも必要ではないでしょうか。
誉めることに制限はありません。叱る時にはその理由をハッキリとさせ、子供たちが
納得、理解できるような叱りかたを心がけるようにしたらどうでしょうか。

0-9. 体力をつけようとしな

週1回、2時間ていどの練習では体力はつきません。
中学生までは育ち盛りです。ウサギ跳び、階段のぼりなどの練習は子供たちの成長
を阻害します。いまでは高校生もやりません。
技術を中心に教えてやったほうが良いと思います。
また、そのほうが子供たちの興味を引き出すのです。サインプレーもいいでしょう。

0-10. コーチ間の話し合い

一番、困るのは担当学年内でコーチの教え方が異なるケースです。
ヘッドコーチを中心として話し合いを多く持ち、共通の指導方針を決めておくこと
です。各コーチはそれぞれの考え方があるのは当然で、その意見も尊重しなければ
なりません。しかし、一旦、方針を決めたならそれに従ったコーチングをしなければ
いけないのです。一番困るのは子供たちなのですから。
他の学年からきて口を挟むのは、それが善意であっても排除しなければなりません。